



梶田 和美 議員
(一問一答方式)

- ① 市民の健康と医療費
- ② 山間地域の住民の「生活の足」
- ③ 防災訓練

市民の健康と医療費について

問 医療費助成の拡充は子育て世帯の強い要望であり、この医療費無料化を含め、子育て支援が充実しているところに住みたいと考える子育て世帯も少なくない。

答 県内では内子町、四国中央市で医療費助成の拡充が実現されており、子育て世帯には大変喜ばれているようである。当市では厳しい財政事情からなかなか進まないのが現状であるが、市の財政への負担を最小限にとどめることを考慮し、無料であった0歳児から就学前の6歳児も含め、医療受診の初診のみ500円の自己負担とし、通院の医療費助成の対象を、小学校卒業までに拡充するという考えはないか。

就学前の乳幼児が新たに毎月500円の医療費負担が必要になることは、子育て支

援策に逆行するものと捉えられ抵抗を感じられる保護者も多いのではないかと推察されます。

少子化対策及び子育て支援の充実のために、子育て世帯の経済的負担の軽減を図ることは、非常に意義あるものと認識しています。市の財政負担の増大を伴うことが課題となっており、他の子育て支援策の拡充を含め総合的に検討していきたいと考えています。

山間地域の住民の「生活の足」について

問 当市では、山間地域だけでなく公共交通ぐるりんバス、スクールバス、福祉バスなど全く通らない空白地域もあるが、特に山間部などの地域に暮らす交通手段のない高齢者にとっては、生活の足は買い物だけにとどまらず、医療、福祉といった命にかかわることにもつながり、なくてはならないものである。地域の多様なニーズに的確に対応しつつ、住民の暮らしを守る、安全・安心なものとして地域内での有償運送事業を導入できないか。

答 本市では、脇川、河辺地域に置いて、廃止路線バスの代替措置として市の運営により鹿野川一河辺間の1路線で有償運行を行っているようですが、NPO法人等による有償運行の実績はありませんので、当面、山間地域の公共交通

については引き続きスクールバスの有効活用による空白地域の解消に努めるとともに、デマンド交通システムやNPO法人等による有償運行など、利便性の高い交通サービスについてもさらに検討していきたいと考えています。



ぐるりんおおず

については引き続きスクールバスの有効活用による空白地域の解消に努めるとともに、デマンド交通システムやNPO法人等による有償運行など、利便性の高い交通サービスについてもさらに検討していきたいと考えています。

防災訓練について

問 合併10周年記念行事の中に、市内一斉防災訓練としておおずシェイクアウト訓練(仮称)の計画がある。9月1日、防災の日の午前10時から実施予定とあり、市内全域で一斉に訓練を行い、防災意識の向上と地震災害に関するリスクや地震発生時の安全確保行動に関する理解促進を図るとされ

ているが、この訓練のやり方、方法、また市民への周知についてお聞きしたい。

答 シェイクアウト訓練は、決められた日時に地震が発生したことを想定し、みんなが一斉に安全を確保する行動を行う訓練で、市民が一体となってこのような訓練を行うことにより、防災意識のさらなる向上を目的として計画しています。

訓練の内容については、南海トラフ巨大地震が発生し、最大震度6強の地震に襲われる想定で行い、まずは訓練開始の放送とサイレンの吹鳴を合図にして体を低くするなどの基本の安全確保行動をしていただき、それにプラスして、大地震発生後の基本行動である出入り口の確保、ガスの元栓を閉めるなどのプラスワンの行動に結びつけたいと考えています。

また、一斉に行う安全確保行動の機会を活用して、避難所を開設する訓練などその後の訓練や防災に関する講和などに取り組みたい。ただ、ため必要な経費の支援を行うとともに実施可能な訓練や講話メニューを各地区自主防災組織の代表の方々に説明したところです。今後は小・中学校や福祉施設などへの周知及び協力の依頼や啓発用チラシ、ホームページなどを活用し、訓練の周知に努めていきたいと考えています。